



月に1回、高須のみなさんにお届けします。

今年はみんなで、今年もみんなで

高須で空あそび

10:00～12:00ごろ

帰ってきたよ、帰ってこれたよ

ひだまりのひマルシェ

11:00～14:00ごろ

2023年1月22日(日) おすすめの楽しみ方

- 10:00～ 小凧を揚げて楽しむ
- 11:00～ みんなで小凧を揚げてみる
- 11:30ごろ～ 六畳凧揚げを楽しむ
- 12:00ごろ～ ひだまりのひマルシェ
で食事やお買い物
- 14:00まで はらっぱでのんびり過ごす



場所は高須長田地区農道またはポニーの家畑地です

入場無料で出入り自由です。 両方一緒に楽しんでください!

発行：高須編集室

お問い合わせ先

住所：〒300-1522

取手市高須2156高須ハウス

電話：0297-84-1874

(火・金 13:00-17:00)

メール：tap-info@toride-ap.gr.jp

ホームページ：https://toride-ap.gr.jp/

主催：取手アートプロジェクト実行委員会

助成：令和4年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

/財団法人自治総合センター令和4年度地域の芸術環境

づくり助成事業



高須日記

高須ハウスに関わるアーティストやスタッフが執筆します。今回は、取手アートプロジェクト半農半芸ディレクター・アーティスト岩間賢です。

高須の大空に凧 大地に市場(マルシェ)
このようなお祭りができるのはここだけです。

お正月の風物詩でもある凧揚げの歴史は古く、その起源は西洋においては紀元前500年頃ギリシャで考案され、紀元前300年頃中国でも作られたと言われている。日本の凧は平安時代以前に中国から伝わったと『和名類聚抄』に記されている。

凧の語源は、もともと凧の形がイカに似ていることから「いかのぼり」と呼ばれていた。江戸時代に入ると身分に関係なく、「一般庶民の間でも大人気となり事故が多発し、幕府が「いかのぼり禁止令」を発令した。そこで江戸町民は「イカでなくこれはタコ」と言い訳をしたことから関東では「タコ」と呼ばれるようになった。

ちなみに明治時代まで関西ではイカ、中国地方ではタツ、長崎ではハタ、東北ではテングバタとも言った。「凧」という字は日本独自の漢字(国字)でもあり、これほどまでに愛された凧を、この地でしっかりと守り続けていきたいですね。